



みんなで力を合わせて、
きのと小

燦 だより

子どもの方をしっかりと向いて、大事に大事に育てましょう

平成29年1月11日
学校だより第15号
胎内市立きのと小学校

[http:// tainai-ed.nxc.jp/kinoto-es](http://tainai-ed.nxc.jp/kinoto-es)



気持ち新たに

限界と可能性

校長 佐藤 新一



昨年中は大変お世話になりました。

「伸びる可能性」をもつ子どもたちを多方面でその力を引き出してくれた職員、それを見守り支えてくださった地域・保護者の皆様に心から感謝申し上げます。

その勢いを持ち、気持ちを新たに、本年も職員一同邁進致したいと念じております。本年も昨年同様、よろしくお願い致します。

年初めは、やっぱり子どもたちに夢や希望を語りたいものです。また語らせたいものです。始業式には代表児童が、自分の言葉で、信念をもって「3学期のめあて」を堂々と発表してくれました。達成できるよう共に支援して参りましょう。

始業式で『イチロー』と『心の蓋』の話をしました。

ノミの話

「ノミが150cmの人間になったとしたら、一体どのくらいのジャンプ力があるのか予想してみましよう」。

- (1)きのと小体育館のギャラリーの高さ(3m)
- (2)きのと小学校の屋上までの高さ(17m)
- (3)新潟県庁の高さ(87m)

正解は(3)です。体長の60倍だそうです

ノミのジャンプ力は、体長の150倍(人なら225m)という説もあります。すごいジャンプ力です。

心の蓋

これだけジャンプ力のあるノミですが、小さな小瓶に入れ蓋をして飼っていると、数ヵ月後には蓋の高さ以上にジャンプすることができなくなるのです。人間も同じだと思います。どれだけ大きな可能性や力を秘めていても、「**自分には、無理**」という心の蓋を自分自身にしてしまっは、それ以上の可能性や力は発揮できないと思うからです。

三学期は、学習はもちろん縄跳び大会や六送

会などがあります。心の蓋をとっばらい、自分の可能性を信じてがんばらせたいものです。事あるごとに「心の蓋」と問いかけ、言い続けることで浸透させたいと思っています。

環境が人を左右する(朱に交わる)

心に蓋をしたこのノミを、以前と同じようなジャンプ力までに戻せるでしょうか？その方法は？

跳ばなくなってしまったノミを、高くジャンプしている元気なノミの群れに入れるのです。そうすると、自分も跳べること、かつて跳んでいたことを思い出し、やがて以前同様に高く自由に跳ぶようになるといいます。これは何を意味しているのでしょうか。「どの様な群れに属しているのか」高いレベルの環境にいることによって、今は望むようになっていなくても、目指す姿を実現することができるということです。

友達との比較や少し試みてできないことで創り出される心理的限界。しかし、自分の取り組んでいる物事のゴールはそこにはなく、遙か先にあることを伝えたいものです。環境に左右されることが分かっている以上、私たちがどのような子どもたちに育てたいかをイメージし、それに適した環境づくりを事あるごとに意識していけたらと思っています。

そして、これは子どもにだけでなく私たち大人にも当てはまることであり、諦めがちな私自身にいまさらですが、「心に蓋をしていないか」「環境を整えているか」ということを自問していこうと思っています。可能性は無限大です。『笑顔でチャレンジ』をキャッチフレーズに取組を進めます。

今年も学校と家庭が手を取り合って、「共育」で子どもたちを育てて参りましょう。

